

■第5回HUL(HISTORIC URBAN LANDSCAPE・歴史的都市環境・景観)連続シンポジウム
～金沢の取組みから、歴史的都市環境のいまを考える～

日時:2022年1月23日(日)14:00～16:00

会場:ZOOMによるオンライン

参加費:無料(※参加を申し込まれた方には当日までに配信 URL をお知らせします。)

主催:NPO法人全国町並み保存連盟

問合せ・申込み:NPO法人全国町並み保存連盟

E-mail: matinami@pop02.odn.ne.jp (●を@に変えてください)

氏名、所属、役職、メールアドレス、電話番号を明記の上、上記アドレスまでE-mailにてお申込みください。

電話:03-6240-0321(不在の場合は留守電にメッセージを残してください。折り返します)

締切:2022年1月19日(水)17:00

.....

【プログラム】

▼問題提起とこれまでの報告

中村泰典(NPO法人倉敷町家トラスト代表理事)

▼金沢から報告

川上光彦(NPO法人「金澤町家研究会」理事長・金沢大学名誉教授)

▼質疑応答

福川裕一(千葉大学名誉教授・NPO法人全国町並み保存連盟代表理事)

▼進行

成清仁士(ノートルダム清心女子大学人間生活学部人間生活学科准教授)

この連続講座は、2020年1月に第42回全国町並みゼミ川越大会のイベントとして開催したトークセッション「谷中をとおして最先端の歴史まちづくりを考える」から始まった。私たちは、歴史的環境(HUL)を守る多様な制度が整備されてきたにもかかわらず、失われていくものをどうやって救うかという課題に直面したことから、ユネスコのHULから学びたいと、第1回は、HUL勧告に至る歴史的経緯と世界の状況、HULの概要などを福川裕一氏の基調講演から学んだ。第2回は、全国町並み保存連盟会員の福岡県八女市、埼玉県川越市、岡山県倉敷市を事例にあげ、特に重伝建地区制度について問題意識や課題を共有した。第3回は、日本で最も総合的な歴史的都市環境の制度を持つ京都市の制度や課題を、第4回は、11月に開催した第44回全国町並みゼミの会場である奈良市の歴史的環境保全のしくみと運用を学び、第1分科会でさらに議論を深めた。(以上、全国町並み保存連盟HPブログで関連記事を更新中)

第5回は、全国に先駆けて1968年(昭和43)に「金沢市伝統環境保存条例」を制定し、以来、国の制度を使いながら、独自の「こまちなみ保存条例」や「金澤町家条例」などきめこまやかな施策を展開している金沢市について学ぶ。城下町だった金沢には、現在でも町家や武士系の住宅、それらの伝統を受け継いだ近代和風住宅など、多種多様な歴史的建築が遺され、市民が住み継いでいる。

【報告者】

*川上光彦(かわかみみつひこ)

金沢市生まれ。京都大学で建築と都市計画を学び、金沢大学では教育研究活動とともに、地域における都市計画やまちづくり活動に関わる。工学博士、一級建築士。

現在、公益社団法人金沢職人大学校理事長・学校長、カワカミ都市計画研究室主宰の他、石川県都市計画審議会会長、石川県開発審査会会長、金沢市都市計画マスタープラン策定委員会委員長、一般社団法人金澤町家活用推進機構代表理事など。

金澤町家研究会の近刊『金澤町家―改修と活用―』(フルカラーB5判・178頁・定価2,200円(税抜2,000円))は、改修・活用の事例も豊富で、支援のしくみや関連団体も紹介されている。詳細は↓
<https://kanazawa-machiya.net/efforts/other/goods/>

【進行】

*成清仁士(なりきよひとし)

岡山生まれ。博士(工学)。専門分野は建築史・意匠学、都市史、まちづくり。倉敷で2010年よりkurashikimapsプロジェクトを展開、『倉敷おさんぽマップ』等を制作。